



来週の投資戦略 (10/10-13)

日米決算発表などに注目

2023年10月8日

小松 徹

注目事項 — 見所

企業決算 — 米国は金融業、わが国は小売業。

10月12日、8月の機械受注（船舶・電力を除く民需） — 前月比マイナス6.8%？

10月12日、9月の米消費者物価指数（CPI） — 前年比+3.6%、コアも+4.1%？

株式市場見通し

先週のわが国の株式市場は大荒れだった。水曜日までは加速度的に市場が下げ、木曜日にやや反発した。米国長期金利が上昇していたため、株式市場がテクニカル的に下げ基調にあり、米国発の政治の悪いニュースもわが国の早朝に飛び込んで来た。そうした中で、個人投資家の視聴者数が多い番組で、ブラックマンデー再來說を大手証券のクレジット・アナリストが披露したことも初耳の人には不安材料となったであろう。週後半にやや戻したのは米国株式市場が反発したためだ。来週のわが国は月曜日が休場だが、開場していれば、週末の米国市場の上げを受けて高く始まっているだろう。

先週末の米国では9月の雇用統計が発表され、米国経済の強さが確認された。そのため10年物財務省証券の利回りが再度4.8%をつけた。ウォール・ストリート・ジャーナル紙の解説によると、市場関係者は予想を上回る非農業部門雇用者数増に目が奪われていたが、平均時給が予想の4.3%に対して4.15%に止まったことを強く評価する動きが出たようだ。通常、金利が上昇するとナスダック市場の下落が米国主要3市場の中では一番大きくなるが、今回そうならなかったのは、景気の強さの方に投資家の目が向かったということらしい。

さて、来週は日米で主要企業の決算発表がある。わが国では多くの小売企業や機械企業の決算に注目したい。中でも木曜日のセブン&アイホールディングス(3382)とファーストリテイリング(9983)が重要だ。セブンは第1四半期に20%営業減益とアナリスト予想を下回った。第2四半期アナリスト予想は20%近い営業増益だ。一方、ファーストリは好調な決算が続いており、今年度の業績予想をどの程度増益で出すか。アナリストは前期推定比14%営業増益を予想している。米国では金曜日にジェイ・ピー・モルガン・チェース、シティーグループなどの決算が出る予定。JPMの第3四半期一株当たり利益(EPS)は前年比18%増益が予想されているが、シティーの方は30%減益と予想されている。

最後に、来週の米国経済指標では水曜日に前回の連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨が発表される。ドットチャートの金利が引き上げられた過程で、どのような話し合いがあったのか、ヒントがあるだろう。木曜日に9月のCPIが発表される。エコノミストの予想は前年比+3.6%、コア指数も+4.1%と前月よりもやや低下すると期待されている。米国長期金利の反応に注意したい。

KPAの投資戦略

ロング (買い)	ショート (売り)
好財務の割安株、今期増益株	高PB低位株、高PE新興株

(注) ヘッジ・ファンド向け戦略としての一例。投資期間は半年程度を想定。



本レポートは、情報提供の目的のみでご利用者に提供されるものであり、有価証券売買に関する何らかの申し込みまたは勧誘を意図するものではありません。本レポートに記載されるすべての意見および予測は、レポートの日付時点におけるコマツ・ポートフォリオ・アドバイザーズ(以下、KPA)の判断であって、予告なしに変更される場合があります。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析がすべてのご利用者にとって適切であるとの表明を行うものではありません。ご利用者は、投資に伴うリスクとメリットがご自身にとって適切であるかどうか、自己の責任で判断して頂きます。KPAは本レポートについてその正確性、完全性または適時性を保証していません。KPAはいかなる保証も行わないことを明確にしています。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析にご利用者が依拠した結果として被る可能性のある直接的あるいは間接的な損害について責任を負いません。本レポートについての知的財産権はKPAに帰属し、著作権、特許権、商標権その他の知的財産権に関する法令により保護されています。本レポートを印刷した場合も、その印刷物の著作権は、KPAに帰属します。ご利用者は個人的利用を目的としたバックアップのためにのみ印刷、複製することができます。プリントアウトした印刷物や複製したデータを、個人的利用以外の目的で使用することはできません。ご利用者は、本レポートを、有償・無償を問わず、第三者に提供することはできません。また、これを改変、修正することはできません。本規定にご利用者が違反した場合、KPAは金銭的な損害賠償を含む救済手段を請求する権利があります。